

第 183 回東葛しぜん観察会

自然豊かな利根運河・理窓公園で春を満喫

木村将夫(流山市)

日 時：2023 年 4 月 2 日(日)10：00～12：30 天気：曇り時々晴

場 所：利根運河～理窓記念公園（流山市・野田市）

参加者：28 名(内 子ども 1 名) 指導員：16 名

担当指導員：木村、高橋重、前田、

今年はサクラの開花が平年より早かったのですが、当日の観察会にはソメイヨシノが未だ咲いていて、オオシマザクラが満開で 景観には大変恵まれました。

今回のポイント 1：利根運河はどうして出来たのか？ ふれあい橋の中央から兩岸のサクラを観ながら大賑わいとなった明治 30～40 年頃の繁栄の様子を当時の絵を見ながら想像しました。

ポイント 2 は運河の土手に出て カラスニエンドウ・カサマグサ・スズメノエンドウを同じ場所で見つけて夫々の特徴や違いを確認して楽しみました。

ポイント 3：スプリングエフェメラル（春の妖精）としては、カタクリ・ニリンソウ・アマナなど植物と同じように春のみに出現する昆虫も含まれます。今回はギシギシと一緒に土の中から出てきて その葉を食べ 産卵・孵化した幼虫がギシギシの葉をも食べている状態を観察しました。6 月頃 土の中に入り 休眠し、越冬するコガタルリハムシもスプリングエフェメラルです。

ポイント 4：サクラの開花と同じころ、江戸川の土手を黄色に彩るアブラナの花ですがその根はダイコンのように太くなり、その根が腐り そこにミミズが発生し それを食べるためにモグラが集まり、堤防の弱体化が観察できました。

タンポポもよく咲いていましたが、カントウタンポポでした。通常の場合では外来種のセイヨウタンポポが殆どなので従来の環境が保全されている場所と感じました。ノウルシやその仲間のトウダイグサも観察しました。ハルガヤ・コウボウなどの匂いやヤドリギも見上げ、ヒレンジャクなどの野鳥の糞を通して落葉広葉樹と半寄生しながら繁殖している様子がみえました。ヤブツバキもよく咲いていてメジロを通しての受粉の関係も確認できました。

最後はナラ枯れ病の発生でコナラの大木が 80 本も伐採され、その切り株からナラ枯れの状況を確認でき、自然保護の難しさを感じながら観察会を終了しました。



タンポポの白い液はラテックス、花の形も解説



ナラ枯れの犯人はカシノナガキクイムシの幼虫